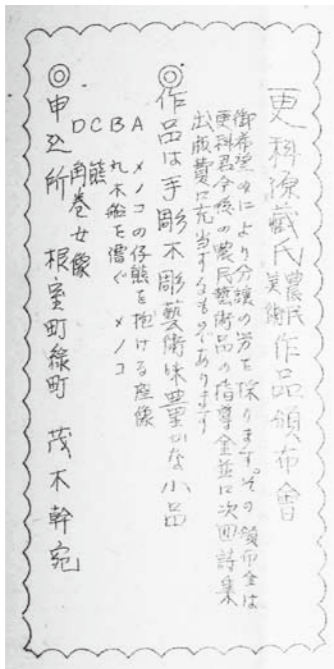


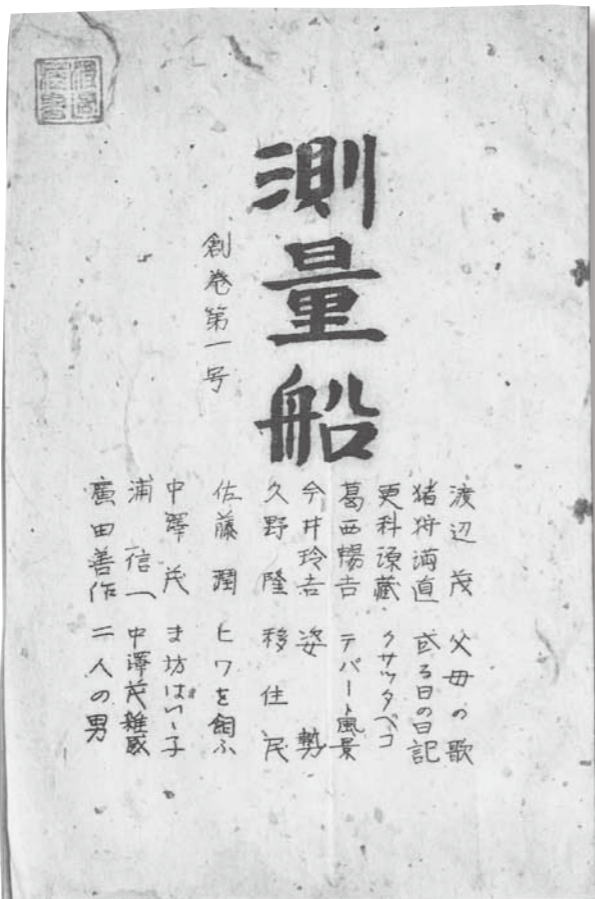


更科源藏(さらしなげんぞう)
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動が続けた。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



更科の木彫り頒布広告



文芸雑誌『測量船』

更科と根室の文学青年との交流が始まったのは、1925(大正14)年、釧路で創刊された詩と短歌の雑誌『潮霧』に根室の詩人・工藤麗瞳が寄稿していた、更科がこの雑誌の第6号から参加していることや、更科が編集していた詩誌『至上律』の第6集(1928(昭和3)年11月発行)に、工藤麗瞳が詩を寄稿していたことからでした。

更科は、1929(昭和4)年11月に詩誌『至上律』を第12集で終刊し、1930(昭和5)年1月に新たに『北緯五十度』を創刊しますが、1931(昭和6)年5月の第7集で休刊します。更科は、1930年4月から屈斜路コタンの学校の代用教員をしていたのですが「蝦夷征伐事件」が引き金となって1931年8月に解職されるなど身辺が慌ただしく、詩誌の編集をする時間がなかったからだと考えられます。

屈斜路コタンから熊牛原野の実家に帰った更科のところへ、この年の大みそか、根室から小説家・中沢茂と、詩人で画家の茂木幹が訪ねてきました。更科は、野菜づくりとコタンで手がけていた木彫りで生計を営もうと考えていること、中沢たちは雑誌創刊のこと、それぞれ計画を話したことでしょう。翌年、1932(昭和7)年の春、更

科がセタイベツ(熊牛原野)に山小屋風の家を建てるころ、根室の中沢茂の個人雑誌『測量船』が3月に発行されました。この雑誌には、根室の文学青年たちが作品を寄せていました。また、更科や休刊中の『北緯五十度』の同人たち・渡辺茂猪狩満直、葛西暢吉の作品が載せられていて、号を重ねるごとに山形の真壁仁が土田樞夫の筆名で、同じ山形の詩誌『犀』からは長崎浩が、さらに、更科の妻・中島葉那子らが詩を寄せるなど、全国的な広がりになっていました。休刊していた『北緯五十度』の同人たちにとって、心のよりどころにもなっていたのです。

『測量船』に、更科の木彫りの広告(左の写真)が載っています。

更科源藏氏農民美術作品頒布会
御希望により分譲の労を採ります。
その頒布会は更科君今後の農芸美術品の指導金並に次回詩集出版費に充当するものであります

◎作品：(以下略)

◎申込所 根室町緑町 茂木幹宛

これと同じくして山形の詩誌『犀』にも頒布会の広告が載り、根室や山形では更科の木彫りの注文があったといえます。

しかし『測量船』の9号が無届出版であるとの理由で、中沢茂は警察に罰金20円を取られ、廃刊にします。

料金受取人払郵便
釧路支店 認
2068
差出有効期間
平成25年3月
31日まで
(切手不要)

町民課町民相談係行

弟子屈町役場

0883292